MCj03956620000[1]

≪学習問題≫

折りづるは　全部でいくつあるでしょうか。

（200をこえる折りづる）

①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・1年「10よりおおきいかず」，「大きいかず」で，十進位取り記数法での数の表し方を理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・10を単位として，数の相対的な大きさを表す学習をしている。

○共同追究でのゆさぶり

・100を単位として，数を表す経験は少ない。

○ゆさぶりに対応する経験

・10ずつ数える学習をしている。

教材研究ノート№2-A-5

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し：こんなに多くの数を一つ一つ数えることは，時間がかかる。10ずつまとめると10個よりたくさんできる。

　　　→10の束を10こずつまとめて数えていけばよさそうだ。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

②学習課題：10の束をつくって，10の束にならないものを1のばらにして数えてみよう。

③個人追究：10このまとまりの数を数え，それを10個ずつまとめる数え方を説明する。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「みんなはどんな工夫をして数えたのだろう？」

→「10の束も10ずつにまとめると，数えやすくなる」

「10の束が23こと，バラが5つできる。」

｢10の束も10になったらまとめればいい。｣

「100の束が2つ，10の束が3つ，1のバラが5になる。｣

「まとめた数が多い順にならべてる」

④共同追究後半（思考を深める）

「100は10の束が10こ。100のかたまりが2つあると，10の束がいくつあることになるだろうか？」

→「10＋10＝20　　　20こ」

⑤まとめ（子どもの言葉で）

・100が2つあると2百とよむ。

・ぜんぶで二百三十六ある。

・10の束をつくって，それをまた10ずつのかたまりにしてかぞえると，はやく正確にかぞえることができる。

⑥定着･活用問題

・三百五十二を，100と10とばらにわけて順にならべてみよう。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・全部で何個くらいあるかを予想させ，どのように考えて予想したかを問いかけることで，数え方を考える活動への見通しを持たせたい。

・具体的に数えながら数えやすくするために10の束にする既習事項を想起させ，100をこえる数になったとき数えやすくするために，それを更に100の束にして数える方法に気付かせたい。

【板書計画】